

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の経済情勢は、米国では回復が続き、欧州でも緩やかな回復基調で推移し、アジアでは中国において景気に減速感が強まるなど、世界経済は力強さを欠きながらも緩やかな回復が続きました。国内経済は、一部に改善の遅れもみられるものの、緩やかな回復基調をたどりました。

このような状況の下、当社グループは、当期を初年度とする3ヵ年の中期経営計画「Change & Challenge 2018」を始動し、「持続的成長を可能にする経営基盤の強化」「資源・エネルギー・地球環境問題への対応と貢献」を基本方針として、各部門の収益力向上を推進するとともに、各事業課題の解決に向け取り組んでおります。当第3四半期連結累計期間においては、急激な円高、セメントの国内需要減少および輸出環境悪化等の影響を受けました。加えて、第3四半期に入り、石炭等原燃料価格上昇の影響を受けました。また、昨年より隔年実施に移行した宇部のアンモニア工場定期修理と、自家発電所の定期修理の実施により、これらの影響を受けました。

この結果、当社グループの連結売上高は前年同期に比べ424億1千7百万円減の4,399億9百万円、連結営業利益は85億5千9百万円減の226億9千3百万円、連結経常利益は75億3千1百万円減の226億3百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は41億5千6百万円減の150億7千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
当第3四半期	4,399億円	226億円	226億円	150億円
前年同期	4,823億円	312億円	301億円	192億円
増減率	△8.8%	△27.4%	△25.0%	△21.6%

セグメント別の業績は以下のとおりです。

化学

ナイロン樹脂の出荷は食品包装フィルム用途を中心に堅調に推移しましたが、市況は軟化し、円高の影響も受けました。ナイロン原料のカプロラクタムは、中国での供給過多の状況は継続していますが、市況は回復傾向で推移し、海外ではアンモニアなど副原料の価格低下も寄与しました。アンモニア製品の出荷は、工場の定期修理を実施したこともあり、低調でした。ポリブタジエン(合成ゴム)はエコタイヤ用途を中心に出荷は概ね堅調でしたが、原料価格上昇の影響を受けました。

リチウムイオン電池材料はセパレータ、電解液ともにエコカーなど車載用途で、出荷は伸長しました。ポリイミドフィルムやファインケミカル製品の出荷は概ね堅調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ196億7千3百万円減の1,835億3千7百万円、連結営業利益は51億2千2百万円減の44億5千6百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	1,835億円	44億円
前年同期	2,032億円	95億円
増減率	△9.7%	△53.5%

医薬

医薬品は出荷時期にばらつきがありますが、自社医薬品の血圧降下剤、抗アレルギー剤、抗血小板剤ともに原体の出荷は前年同期を上回りました。受託医薬品の原体・中間体の出荷は概ね堅調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ13億8千9百万円増の71億1百万円、連結営業利益は10億6千7百万円増の16億1千3百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	71億円	16億円
前年同期	57億円	5億円
増減率	24.3%	195.4%

建設資材

セメント・生コン製品の国内出荷は、前年同期をやや下回りました。セメント輸出は、出荷は堅調でしたが、市況は軟化傾向に推移しました。第3四半期に入り、石炭価格上昇の影響も受けました。カルシア・マグネシア製品の出荷は概ね堅調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ105億5千3百万円減の1,693億3千7百万円、連結営業利益は33億9百万円減の124億9千万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	1,693億円	124億円
前年同期	1,798億円	157億円
増減率	△5.9%	△20.9%

機械

堅型ミルや運搬機等の産業機械は、国内、輸出ともに出荷は低調でした。自動車産業向けを中心とする成形機は、国内の出荷は堅調でしたが、輸出は低調でした。各製品のサービス事業は堅調に推移しました。製鋼品の出荷は前年同期を上回りましたが、市況低下の影響を受けました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ84億8千5百万円減の432億5千5百万円、連結営業利益は10億3千5百万円減の15億1千1百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	432億円	15億円
前年同期	517億円	25億円
増減率	△16.4%	△40.7%

エネルギー・環境

石炭事業は、販売数量およびコールセンター（石炭中継基地）での預り炭の取扱い数量が、ともに前年同期を下回りました。電力事業は、自家発電所の定期修理の影響を受けました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ105億1千2百万円減の427億6千2百万円、連結営業利益は3億9千4百万円減の22億6千9百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	427億円	22億円
前年同期	532億円	26億円
増減率	△19.7%	△14.8%

その他

その他の連結売上高は前年同期に比べ20億2千1百万円減の105億1千8百万円、連結営業利益は2億1千9百万円減の6億3千9百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	105億円	6億円
前年同期	125億円	8億円
増減率	△16.1%	△25.5%

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末の総資産は前年度末に比べ、現金及び預金が108億3千9百万円減少しましたが、商品及び製品などのたな卸資産が120億7千2百万円、受取手形及び売掛金が36億5千5百万円増加したことなどにより、106億7千4百万円増加し、904億5千7百万円となりました。

負債については、有利子負債が56億9千3百万円、未払法人税等が37億1千万円、賞与引当金が35億9千万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が161億9千2百万円増加したことなどにより、17億8千2百万円増加し、919億4千3百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が配当により53億円減少する一方、親会社株主に帰属する四半期純利益により150億7千2百万円増加したことなどにより、88億9千2百万円増加し、985億1千4百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結の業績予想につきましては、本日公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、売上高6,100億円、営業利益330億円、経常利益310億円、親会社株主に帰属する当期純利益200億円を見込んでおります。